

授業に関するアンケート（2017 年度春学期・学部） 実施結果に対する授業評価報告

- ・授業アンケート結果の数値や「教員コメント」に基づいて、学科等の総括を概ね 4 ページ以内でご記入ください。
- ・原則として、すべての項目にご記入ください。
- ・可能な限り、箇条書きでご記入ください。

学科等
英語英文学科

（1）授業実施に関する質問結果について

1. 授業内容はシラバスに合っていましたか。
まず 14 名の教員中、11 名の提出をもとに報告書を作成する。3 名の未提出者はいずれもネイティブスピーカーであり、この程度の日本語処理能力は日本の大学で教えている限り求められるのであろうが、他大学の授業アンケートはすでに日英両言語表記になっているところが多くあるのが現状である。国際主義を大学の根本理念に掲げる本学としてはその点の見直しも必要なのではないだろうか。 シラバスについては「ほぼ予定通り授業を行うことができた」とする意見が大半であったが「4 年次生は就活のため欠席が多く、シラバス通り授業を進められなかった」「自分ではどの科目も、シラバスに合致しているつもりだが、大クラスでは「2.あまりそう思わない」「1.そう思わない」を選択した学生も含まれていた。その学生がどの程度シラバスを理解しているのか、疑問に思う」という意見もあった。 この点についてはシラバス構造についても大学として再考するべきでないだろうか。例えばシラバスには「準備学習の欄」があるがどの科目でも必要だろうか？準備が非常に必要となる科目もあれば、講義科目で授業に参加することによってほぼ事足りるタイプもあるはずである。科目によっては NA（当てはまらない）という表記も許容するべきではないかと考える。そのことによって建て前的なシラバスからの脱却ができるのではないだろうか。
2. 受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。
「理解が及ぶようにゆっくりとした授業を心がけている」が学生の個人差（能力、集中度など）や「大クラスの場合、ひとりひとりの表情を読み取るのが難しい」などクラスサイズの相違によって困難であるという意見が散見された。
3. 授業レベルは自分に合っていましたか。
例えば「英語情報処理演習において 2.85 と低調であった」など科目によりまた教員により大きな相違が見られた項目であった。また「レベルが合っている」という基準は、学生によってまちまちではないか、という疑問がある」との声もあった。教員の多くは「レベルを低くしないようにしながら、より分かりやすくを心掛けたい」と考えているように思われた。今後、1-2 年次では英語能力別クラスの拡充・縮小を再検討しながら学生により適合した授業の提供ができるように検討を進めたい。
4. 教員からの一方向的な授業ではなく、教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。
アクティブ・ラーニングを多くの教員が意識しながら半数程度はグループアクティビティーを導入しながらその実現を図っているが、残りの半数は「もう少し活用できればという授業はあった」「工夫する余地があるので検討したい」と考えているようであった。一方、「大クラスの講義科目でも、折に触れて、全体に質問を投げかけたり、隣り合った学生同士で意見交換させるなど、工夫しているつもりだが、この授業形態の科目では、この項目の数字を大きく上げるのは難しい」「科目によっては人数も多く、授業中に行う課題も多いので、学生とのインターアクションに関してはあまり期待はできないのが残念である」との声もあった。

5. 提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナビーでのコメント、チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。
「提出物に関してはできるだけ速やかに返却をするよう心掛けている。内容を重視するようなものは多少時間が必要となるためすぐには無理なものもあるが、必ず返却するようにしている。春学期中に返却できなかったものは秋学期で返却する予定である」という意見に代表されるように、特に英語英文学科では課題として提出させるものも多くあるのではほとんどの教員が添削等に多くの時間を割きながらフィードバックに努めている。一方、「共通英語の授業では受講生が多く、添削は十分とは言えなかった。英作等の典型的な誤りは、授業で板書による説明をしていこうと思う」などクラスの形態によってはフィードバックが困難である状況も垣間見られた。
6. 言葉による説明だけではなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。
「おおむね達成されていた」という声が多い。多くの教員が映像資料、コンピュータ画面の投影（パワーポイントなどの利用）など様々な工夫をしている。一方、「スライド、映像資料を用いて工夫しましたが、ハンドアウトの情報量が多すぎたかもしれない」などの意見もあった。ただこの質問項目は4番の項目とオーバーラップしているように思う。もし今後もこの質問項目を残すのであれば4番の次に配置するべきであろう。学生のアンケートに真剣に回答しようとする意欲が薄れ、ひいてはアンケートの信頼性の低下を招く。
7. 自主学習を促す工夫がなされていましたか。
「すべての科目でおおむね達成できていた」という肯定的な声がある半面、「科目において低い。課題をもう少し提示する必要がある」、「講義系科目で自主学習を薦めるのには難しさを感じる。授業外でも広く興味をもって調べる、ということをやりたい」という声もあった。科目により自主学習を促す工夫は異なるのかもしれない。今後学科内でもどのような自主学習が可能であるのか、検討を進めてみたい。
8. 工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可、なしも可）。
「スライドやタスクの回答の提示時間を長くしてほしいというリクエストは毎年あるが、授業中に「時間の必要なひとはいますか」と声をかけているので、その時に声をだしてもらえればありがたい、「教材の音量なども「その時」に言ってもらえればすぐに対応できるものである」など教員と学生の意志疎通に起因する問題もある。また「少数ではあるが、「公平性」を選んでいる学生があり、驚いた。自分ではどのクラスでも、「公平性」を徹底しているつもりだが、そういう受け取り方をしている学生がいることが分かったので、今後は誤解を避けるよう、一層注意したい」などのコメントがあった。一方、「ここにフィードバックされているのが全てなのだろうか？これまでのような自由記述がなくなったので判断材料に乏しい」との意見もある。今後、自由記述欄の復活などこの授業アンケートの継続的改良をして頂きたいと願う。

（2）この授業の学修行動に関する質問結果について

9. この授業の予習、復習、自主学習に1週当たり平均どれくらいの時間をかけましたか。 ※学内外を問わず授業に間接的に関係のある学習を含む。ただし、授業時間は除く。
「毎週丁寧な予習・復習が必須の Writing Skills で、30分未満が57.9%は「残念」としか言えない」という意見に代表されるように多くの科目で授業外学習時間が不足しているようである。一方、3年次以降のゼミナール科目では一様に学習時間が増えているのも特徴である。これはプレゼンテーションやレポートが課題となっているためであろう。このような効果を他の科目でも得られるように、今後学科内で科目間の連絡を図り、課題の連携などをしてゆくと学外学習時間は増えるかもしれない。

10. あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。
「おおむね、積極的に意見を述べていたと思う」「出席カードを授業に対するコメントを書く形式にし、毎回提出させる授業もある」という意見もあるが「こちらから質問をしても反応がない場合が多いので難しい」などの意見もある。これは授業のタイプや教員によって大きな相違がみられる項目である。一方、「授業内容により異なるのだが、ゼミクラス等の少数のクラスでは、積極的に質問にくる学生がいる。そのような学生が増えるように、質問しやすい雰囲気を作っていきたい」といった意見に代表されるように学習環境の整備も重要かもしれない。また、多くの場合出席カードの裏に一緒にコメントを書かせていると思うが今後「コミュニケーションペーパー」などを創設するのも方法かもしれない。
11. あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。
「授業のトピックについては関心が高いようでしたので安心した」「おおむね、授業内容に興味を持ってもらえたと思う」という意見もあるが「基本的知識を提供して、そこから学習を進めていくように指導したい」などこの結果を受けて今後の授業を改善しようとする意見もあった。
12. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。
この項目についてはあまり多くの意見が見られなかったが「ゼミ以外は指定クラスが多いので、あまり選択の余地なく受講している学生が多い」など必修科目を受講している学生にはこの質問項目はあまり意味がないのかもしれない。ただ選択科目では「授業内容」を選択した学生が圧倒的に多かった」という報告があるように、質問項目自体は存続する意味はあると思う。

(3) この授業の到達目標に関する質問結果について

13. 到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。
「全7科目中、評定平均値が3.5以上は5科目であり」「おおむね、到達目標を達成しやすいように指導できたと思う」「まずまずの数値だと考える」など指導の工夫が学生に伝わっているようであった。一方「到達目標を最初だけではなく、中間、期末にも伝えと、より達成のイメージがわいてよいかもしれない」という意見もあった。今後到達目標の共有の方法についても学科内で検討してみたい。
14. あなたは到達目標を達成できたと思いますか。
「全7科目中、評定平均値が3.08以上が6科目でありまずまずの数値だと考える」という意見もあったが「受講生の達成度の認識が、予想より低かった」など学生自身が自信をもって達成できたと回答した科目ばかりではない状況であった。今後対策も検討してみたい。
15. DWCLA10の内、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可）。
「思考力、ついで分析力を選んだ学生が多かった。特に4年ゼミではこれらのほかにプレゼンテーション力やコミュニケーション力も目立った」「2～4年次のゼミでは「プレゼンテーション」に力を入れているので、この項目の選択率が80～88.9%であり、「分析力」「思考力」の選択率も47.1～77.8%と高かった、残りの4科目については、いずれも「思考力」の選択率が高かった（44～68.4%）」という意見もあり「実感を感じられるよう、授業内でもメッセージを伝えていこうと思った」という意見もあった。一方、「DWCLA10 自体の恒常的な見直しを図るべきではないだろうか」という意見もあった。今後、DWCLAを大学に根付かせるためにも項目の継続的検討は必要かもしれない。

(4) その他

「大教室の講義科目を演習科目と同じ基準で評価しても、あまり意味がないように思う」

「特に項目 4、5、9、10 を大教室の講義科目で十分に達成することが可能かどうか、大いに疑問である」

「以前のアンケートより、細かい項目が増え、受講生も答えにくそうであると同時に、担当者側から見ても回答をどのように受け止めたらよいのかわからない部分があり、正直、とまどっている。本当によりよい授業を行うための効果的なアンケートを行うなら、それぞれの学科、科目ごとにもっと個別の質問をするべきではないかと思う」「この教員用アンケート様式、書きにくい」「今回のような様式（授業アンケート、教員からのコメント）が適切であるかどうか、専門的に検討をして頂きたい」という意見が寄せられた。

特に、項目間のオーバーラップ、自由記述が結果的にほとんどなくなってしまった点は再考して頂きたい点である。

教育開発支援センター